

城南新報

発行所 ©
 (株)城南新報

T 611-0021 宇治市宇治里尻
 TEL (0774)24-1221
 FAX (0774)22-5754
 E-mail jshinpou@ybb.ne.jp

西小倉まちづくり研究会

駅周辺の防災を最優先に

住民、行政がスクラム 今秋メドに課題抽出へ

山積する課題解決へ住民と行政がスクラムを組んで話し合いを続けている宇治市の「西小倉まちづくり研究会」は近鉄小倉駅周辺の防災にテーマを絞って課題を抽出する。今秋をメドに地元で確認、その後、行政との役割分担、長期、短期などの仕分けを行い、解決手法を検討していく。

1960年代からの急激な人口増加に伴う開発により誕生した西小倉地域は隣接する久御山町より多い2万人以上が居住しているが、巨椋池干拓田という低

地にあるほか、近鉄京都線と井川に挟まれて出入口が限られており、万一の災害発生時に住民らがパニックを起こす危険性が指摘されている。

また、少子高齢化も進んでいるほか、集落内の道路幅員が狭く災害時、消防車などの緊急車両の通行、救助活動の妨げになることが予想され、対応が急がれている。

市は92年3月、地域再開発の素案として「近鉄小倉駅周辺地区整備基本計画」を示したが、04年4月にレインボー小倉が売却されるなど、予期しない事態も発生

05、06年度には駅前広場、駅東西地区間の円滑な連絡、住環境改善方策、駐車場問題、地震火災、水害対策、学校関連などの課題を抽出し、住民との協議に備えた。

昨年3月、西小倉自治連合会の役員をはじめ、公募の地域住民、行政ら約20人で「西小倉まちづくり研究会」が発足した。「駅前周辺」道路交通「防災」をテーマに話し合いをする土台を作り、初回は市総合計画や市都市計画マスタープランにおける小倉地区の位置付け、学校統廃合

の考え方などについて確認、昨年10月の第2回会合で委員から、まずは「防災」をこの声が始まった。

この流れを受けて先月末に開かれた第3回会議で数々ある課題の中で「防災」を最優先を決め、エリアも小倉駅周辺と規定した。10月予定の第4回会議までに住民サイドで課題を抽出してもらい、行政と共有。その後、解決手法を協議で検討し、地元と行政それぞれ役割を確認するほか、長期的に取り組み内容と短期で取り組み内容、同自治連の要望との区分けなどを行っていくこととしており、官民協働による取り組み成果が注目される。